

地域包括ケアシステムにおける意思決定支援



池田市地域支援事業推進員/認知症地域支援推進員として、
住み慣れた地域で最期までその人らしく暮らせるまちづくり
に取り組んでいます。今回は、池田市における取組を紹介します。

老人看護専門看護師 稲野聖子

池田市における意思決定支援の取り組み

地域包括ケアシステムとは、住み慣れた地域で最期まで、本人が望む暮らしが実現するように体制構築をすることで、当院は、H25年よりエンド・オブ・ライフ・ケアに取り組んできており、その延長線上で「在宅医療・介護連携事業」「認知症施策事業」の委託を受けて、「意思決定支援」を軸に活動を展開しています。

エンド・オブ・ライフ・ケアの理念にもとづく
池田市地域支援事業

【池田市地域支援事業推進チーム】
行政・市立池田病院・地域包括支援センター・医師会・歯科医師会・薬剤師会

在宅医療・介護連携	認知症施策	地域ケア会議	生活支援の充実・強化
地域の医療・介護関係者による会議の開催、在宅医療・介護関係者の研修等を行い、在宅医療と介護サービスを一体的に提供できる体制の構築を推進	初期集中支援チームの開始による認知症の早期診断・早期対応や、地域支援推進員による相談対応等を行い、認知症の本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域の良き環境で自分らしく暮らすことができる地域の構築を推進	地域包括支援センター等において、多職種協働による個別事例の検討等を行い、地域のネットワーク構築、ケアマネスタッフ支援、地域課題の把握等を推進	生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置等により、担い手やサービスの開発等を行い、高齢者の社会参加及び生活支援の充実を推進

平成27年度第3回池田県在宅医療・介護連携推進会議・アドバイザー合同会議 在宅医療・介護連携推進事業について 会議資料第6号を掲載し高齢者保健課

【地域包括ケアシステムの植木鉢の図】

2016年に改訂され、「本人の選択」がより強調されるようになりました。



1. アドバンス・ケア・プランニングの推進



アドバンス・ケア・プランニング
Advance Care Planning: ACP

あらかじめ、自分で意思表示ができなくなった場合に、だれに自分の代わりに治療方法を決めてほしいか自分の信頼できる代弁者(家族等)をあらかじめ決めておいて、**その人たちと自分がどうしたいのかについて具体的に話し合っておく**

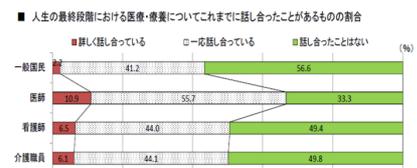


意思決定ができなくなった状態のときにも
本人の意思を尊重した医療とケアが実践できる

木澤義之(2018)ガイドラインにACPが盛り込まれた理由に医療従事者への課題。看護展望、43(6)、24-30。メテカル・フロンティア社

将来を見据えて早期から話し合うことにより、本人の意思が最期まで尊重されやすくなり、家族の心の負担を軽減する意味ももつ(平原、2013)

【厚生労働省】人生の最終段階における医療に関する意識調査 H29速報



話し合っている国民はまだ少ない。死をタブー視する日本文化が影響しているのか。

話し合うきっかけづくりのために、池田市版「ともに医療を話し合うためのガイドブック」を作成し、普及啓発



あなたは、どのような医療を 希望しますか？

前のページのマンガのようなことはいつ起こるかわかりません。
このガイドブックと記録シートを使って日ごろから考えたり、話し あってきましょう。

Step 1 考えてみましょう → Step 2 話しあって みましよう → Step 3 書いてみましょう

あなたの医療に対する希望
希望する医療、希望しない医療は何か？
暮らし・価値観はありますか？
自分が意思決定できないとき、誰に決めてほしいですか？

医師者と話しそう
家族と話しそう
暮らししている場で話しそう

●あなたが考えたことや悩んでいることを伝えてください。
●気持ちが変わるときもありません。そのつど話しあってみましょう。

●話し合ったことを書いておきましょう。
●気持ちが変わったり、節目のときに書き直してみましょう。

今は、決められない、わからない ということがあっても当然です。
そう思ったときは、あなたが今思っていることや気が かりなことを身近な人に伝えるだけでも十分です。



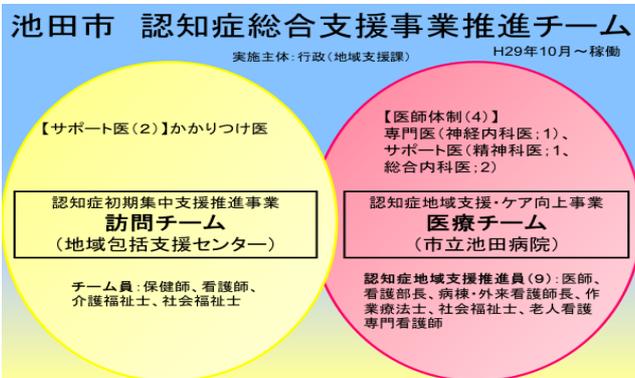
市民や多職種を対象にガイドブックを用いて啓発

2. 認知症の人と家族への支援

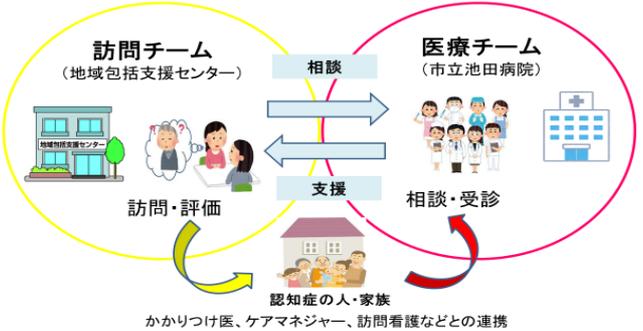
認知症の人の意思が尊重され、住み慣れた地域でその人らしく暮らすために。

認知症初期集中支援チーム

地域で暮らす認知症の人と家族に対し、早期から多職種で介入し、適切な医療と介護につなげることを目的としています。池田市には、4つの地域包括支援センターにチームの窓口があり、市立池田病院と連携して対応しています。



池田市認知症の人と家族への支援における医療・介護連携～認知症初期集中支援チーム 運用～



たとえば、「診断がついていないが認知症がありそう」「薬が飲めていない」「介護サービスにつながっていない」「家族支援が必要」「BPSDの症状が重度」などのケースを発見したら、地域包括支援センターに連絡してください。

認知症初期集中支援チーム検討会

池田市にある多機関の専門職で、現状と課題を共有し、認知症施策を検討。構成員は、市民、警察、医師会、歯科医師会、薬剤師会、包括支援センター、行政、病院、等

【早期発見の市民啓発】

【意思決定支援ガイドブック】

【意思決定支援能力を低下させないために】



せん妄リスクのある患者が入院する場合に外来で配布

認知症の人であっても、自己決定が基本です。「認知症だから何もわからない」のではなく、本人が理解できるようにコミュニケーションに工夫して説明を行いましょう。また、同意能力を評価し、本人の意思を確認したことを記録に残す必要があります。決断を迫られる家族の精神的苦痛に配慮し、その人への理解を深めながら、医療・ケアチームがともに考え続けることが大切です。



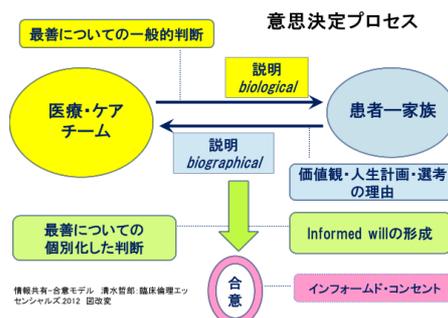
認知症高齢者の意思を支えるために
～自己決定の尊重～

【認知症高齢者の意思決定プロセス】

「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」厚生労働省、平成30年6月

意思形成支援→意思表明支援→意思実現支援

意思決定支援者は、認知症の人が、一見すると意思決定が困難と思われる場合であっても、意思決定しながら尊厳をもって暮らしていくことの重要性を認識することが必要



情報共有-合意モデル 清水哲郎 臨床倫理ワークショップ 2012 田中俊英

認知症高齢者の意思を支えるために
～その人らしさへの理解を深める～

- 日常生活場面における表情や感情、行動
- その人のよき、スピリチュアリティ
- 習慣、こだわり、愛着
- 人生経験、思い出、時代背景
- 家族との関係性



「どのような人」「どのような生き方」を知ることは、言葉にならない思いや望みを汲み取る手がかりになる

Certified Nurse Specialist in Gerontological Nursing, Saito Inoue

困ったときは、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、ECCにご相談ください。